

新年のご挨拶

～実りある年であることを願って～



会長小平トミ

会員の皆さま新年明けましておめでとうございます。早いもので、現執行部の任期も半年余りとなりました。会員の皆様のご協力によって、各部会・各委員会とも事業計画にそって着々と事業活動が追行されていますことを感謝申し上げます。

女税連は今年49回総会です。50年という節目を目前にして、50周年特別委員が第3回幹事会で承認され発足しました。全員参加で成功させようではありませんか。

50年という歳月は、私個人にとりましても社会の中で「女性が働く」ことの変化を体験してきた一人として感慨深いものがあります。50年前といえばまだ社会的に女性軽視の傾向がありましたし、女性自身も他力依存の傾向がありました。そのような時代の中で、私達の先輩は女性であることに誇りと信頼感をもって親睦と研鑽、そして女性の社会的地位の向上を築くため、全国組織を立ち上げた経緯を私達は忘れてはいけないと思います。

現在では全国の会員からなる女税連の活動は社会や業界からも期待される存在にまで成長しました。そして時代は高度成長からバブル崩壊を経て情報化・グローバル化・少子高齢時代を迎え成熟社会となった今日、日本の課題は山積みです。

7年前に制定された男女共同参画基本法の中で、「性別にかかわらず、その個性と能力が十分発揮できる社会」として謳っても、現実に政治や経済への女性の参画度合いを示すジェンダー・エンパワーメント指数が、2005年データで80ヶ国中日本は43位と、非常に低い位置にあると報じられています。

変革が唱えられても、いざ実行するとなると保守的になってしまうのが現状です。しかし時代は今想像を超える急激な勢いで変革がはじまっております。

女性の社会参画が期待されている今日、女性自身、ホンネで変わりたい、社会も変えたいと切望しています。

時代がどんなに変わっても我が国の憲法の理念とするところや、人間の幸福を追求する権利など不変のことを理解し感性や思考を磨くことが大切な時代でもあると思っています。

昨年あるシンポジウムで米沢富美子慶応義塾大学名誉教授（女性科学者に与えられるノーベル賞ともいうべきロレアル・ユネスコ女性科学賞受賞者）が言った言葉を思い出します。「女性は直感と忍耐力に優れており、科学に向いている」。これは受賞スピーチの中で、米・ハーバード大学サマーズ学長の「女性は科学に向かない」という趣旨の発言への反論で言ったそうですが、私は「女性は直感と忍耐力（しなやかさ）に優れており税理士に向いている」と思っています。

そして職業的な誇りに裏付けられた仕事ができるということは大変幸せなことだと思います。

昨今の社会の急激な変化は今までに経験したことのない時代に突入していますが、皆さんと共に2006年を実りある良い年にしてまいりましょう。本年もよろしくお祈りします。

